

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

片倉もところフィールド調査写真によるリピート写真撮影と新旧比較写真の作成

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡邊, 三津子, 古澤, 文, 遠藤, 仁, 片倉, 邦雄, 藤本, 悠子, 河田, 尚子, アナス・ムハンマド, メレー, 石山, 俊, 縄田, 浩志 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00009863

片倉もここフィールド調査写真によるレポート写真撮影 と新旧比較写真の作成

渡邊三津子¹⁾²⁾・古澤 文²⁾・遠藤 仁³⁾⁴⁾・片倉邦雄²⁾・藤本悠子²⁾・
河田尚子²⁾／アナス・ムハンマド・メレー²⁾⁵⁾／石山 俊⁶⁾・縄田浩志²⁾⁴⁾

1) 奈良女子大学, 2) 片倉もここ記念沙漠文化財団, 3) 人間文化研究機構,
4) 秋田大学, 5) ムスリム世界連盟日本支部, 6) 国立民族学博物館

1 はじめに

1.1 リポート写真撮影 (repeat photography) とは

リポート写真撮影 (“repeat photography” または “rephotography”) とは、ある写真が撮影された場所を再訪し、被写体や景観を、同じ地点から、同じ方向、同じ角度で、異なった時期・時間に撮影することを指す。過去の写真は、繰り返し撮影されることで、時間の経過とともに変化していく記録の一部となり (Rogers et al. 1984: xii)、作成された新旧比較写真の被写体や風景の判読を通して景観変化を検討することができる。

歴史的には、バイエルンの数学者 Sebastian Finsterwalder が、東アルプスの Vernagtferner 氷河において、氷河の後退を確認するために1888年と1889年に、定点で繰り返し写真撮影を行ったのが最初の試みとされている (Hattersley-Smith 1966)。以降、地理学、地質学、植物学等の分野において、自然景観の変化を質的・量的に評価するためのツールとして活用されてきた (Rogers et al. 1984; Webb et al. 2010)。

人文社会学的文脈における利用は、“repeat photography” の考え方や技術を下敷きとして、“rephotography” の造語を生み出した写真家の Mark Klett らが1970年代に実施した “Rephotographic Survey Project” (RSP プロジェクト) が最も初期のものとして挙げられる。Klett らは、19世紀の写真家たちが撮影したアメリカ西部の沙漠と都市の風景について、地図やメモ等を参考に可能な限り撮影地点を特定し、アングルや光の加減までオリジナル写真を再現した (Klett et al. 1984)。Klett らによる RSP プロジェクトとしては、写真家 Eadweard Muybridge が1878年に撮影したサンフランシスコのパノラマ風景写真を同様の手法で再撮影した Muybridge and Klett (1990)、1906年に発生したサンフランシスコ地震と火災の後に撮影された写真を再撮影した Klett *et al.* (2006) 等がある。一連の RSP プロジェクトは、人文社会学分野の研究手法としてリポート写真撮影が広く使われる契機となった。近年では、落書きをめぐる都市的景観の変遷や、落書きを規制する政策やそのプロセスとの関連性の考察等にもリポート写真撮影が用いられている (Andron 2016)。

こうした研究の成果は、論文や書籍だけでなくインターネットアーカイブとして公開されるようになっており、例えば、バーモント大学の [The Landscape Change Program]

では、約200年間のバーモントの景観変化を、誰でも気軽に無料で楽しむことができる (University of Vermont 2020)。

日本国内においては、“repeat photography”という言葉こそ使われていないものの、景観変化を読み解くためのツールとして新旧写真を比較するという手法は広く用いられてきた。例えば平岡 (2005) は、国土交通省天竜川上流工事事務所が発行した写真集の中から撮影地点が同定可能な170枚の写真について、同じ視点場から同じアングルで写真を撮影し、明治42 (1909) 年以降の景観変化を明らかにしている。また、浜田 (2007) は、民俗学者・濵澤敬三らが昭和初期に撮影した写真の中から、韓国の蔚山村で撮影されたものを用いて、撮影当時と現在の比較を通して景観変化を読み取ろうとしている。

このように、国内外で景観変化に関する研究手法として用いられているリピート写真撮影であるが、この手法を採用するにあたって最も重要なのは過去の写真の存在である。この場合の「過去の写真」は、「分析の対象となる期間の起点」と言い換えてもよい。例えば、Finsterwalderらのように氷河の定点カメラによるリピート写真撮影を開始する場合には、その開始時点がデータ蓄積の起点となる。Andron (2016) のように、都市部で短期間に作成と消去が繰り返されるような落書きを対象とする場合にも、自ら分析の開始期間を設定し、時には自らリピート写真撮影の起点となる写真を撮影することができる。しかし、Klett *et al.* (1984) や、平岡 (2005)、浜田 (2007) らのように、半世紀から1世紀あるいはそれ以上といったスパンで過去と現在を比較しようとする試みの場合は、その時代の写真がなければ研究をスタートさせることもできない。逆に言えば、ある程度過去の時代の写真があり、その写真の撮影地点を同定できる可能性があるならば、リピート写真撮影により過去から現在、さらには現在から未来へとつながる景観変化に関するデータセットを作成できる可能性がある。この点で、国内外でフィールドワークを実施してきた先人たちが遺したフィールド調査写真は、過去の景観と現在の景観、過去と現在の間に起こった変化を知るための貴重な歴史的資料になりうる。

1.2 歴史資料としての写真とメタ情報の重要性

一方、完全な撮影場所の一致ができない場合でも、過去の景観や人々の生活を知るための材料として古い写真のもつ歴史資料的価値はいささかも失われることはない。むしろ、過去の写真の中にあって場所が特定できないもののほうが圧倒的に多くを占めるが、そこから読み取れることは多い。例えば、東京国立博物館の「古写真データベース」(東京国立博物館 2020) や、長崎大学附属図書館の「幕末・明治期日本古写真メタデータ・データベース」(長崎大学附属図書館 2020) 等は、インターネットを通して自由に閲覧が可能となっており、写真を通して撮影当時の風景や人々の暮らしの変化を視覚的に示そうとする試みの好例である。

しかし、リピート写真撮影を試みる場合も、そうでない場合でも、過去の写真を歴史

資料として活用する場合には、少なくともその写真の風景が、「いつ」の「どこ」のものであるかぐらいは分かっているなければならない。しかし、過去の写真資料の中には撮影場所や時期といったメタ情報が十分でないものも多い。いずれにしても、青山（2017）が指摘するように、写真を歴史資料として利用しようとする際には、写真の風景が「いつ」と「どこ」のものであるかを確定することが出発点となるのである。

1.3 片倉もとこフィールド調査写真を用いた景観変化の検証の可能性

片倉もとこ（1937～2013）は、文化人類学者・人文地理学者として、サウディ・アラビアをはじめとする中東地域の遊牧民やイスラーム文化の研究に従事した。多くの地理学者がそうであるように、片倉もともまた、調査記録として多くの写真を撮影している。片倉もとこフィールド調査写真の原本には、35mmのネガティブ・フィルム、リバーサル・フィルム（ポジティブ・フィルム）の他に、120mmフィルム（ブローニー版）、紙焼き写真、コンタクトプリント等があり、2020年3月現在で61,989シーン分の存在が確認されている。その内訳は、ネガティブ・フィルム18,890シーン、リバーサル・フィルム30,410シーン、ブローニー版11シーン、紙焼き10,508シーン、コンタクトプリント2,170シーンである（縄田・藤本他 2021）。

最終的にはネガティブ・フィルム5,316シーン、リバーサル・フィルム9,707シーン、ブローニー版4シーン、紙焼き写真401シーンの合計15,428点のデジタルファイルを「片倉もとこ中東コレクション（The Motoko Katakura Middle East Collection）」という名のもと国立民族学博物館が運営する「地域研究画像デジタルライブラリ」（略称DiPLAS）において、デジタル写真の保存・活用を目的としてアーカイブ登録された。登録に際してのID番号は「KM」として、その後5桁の番号をふった（縄田・西尾他 2021）。なお、本研究では、片倉もとこフィールド調査写真の中から、この「片倉もとこ中東コレクション」に登録された写真を利用して、リピート写真撮影および新旧比較写真を作成した。

写真の歴史資料的価値という点では、ワーディ・ファーティマ地域をはじめとした中東地域の非都市部において1960年代から2000年代まで継続的に撮影されていること、ムスリム社会において女性の日常生活を撮影した貴重な資料であること等の点からその価値は非常に高いといえる。加えて、景観変化の復元という観点からは、1960年代から2000年代まで継続的に撮影されているという点も非常に大きい。もし、片倉もとこフィールド調査の撮影地点を再訪し、リピート写真撮影を行うことができるならば、過去半世紀の景観変化を明らかにすることができるだけでなく、将来にわたってより長期の景観変化を追跡できる可能性が期待できる。

そこで、私たち調査グループの研究プロジェクトでは、サウディ・アラビア、マッカ州、ワーディ・ファーティマ地域の過去半世紀にわたる景観変化の検証を目的として2018

年から2019年にかけて実施した3回の再調査によって、片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点の同定とリピート写真撮影を試みた。実際に、リピート写真撮影にこぎつけるまでには、低くはないハードルがあったが、現在までに、パノラマ合成写真を含めて50点の新旧比較写真を作成することができた。

本稿では、撮影地点の同定とリピート写真撮影のプロセスを概説するとともに、撮影地点の位置情報を加えて追跡可能な形で作成した新旧比較写真とその一覧表を提示する。

2 撮影地点の同定作業とリピート写真撮影

2.1 撮影地点の同定作業

リピート写真撮影を行う際には、その写真が「どこで」撮影されたかを示す情報が不可欠であることに加え、景観変化の復元という観点では「いつ」撮影されたかが重要になる。しかし、片倉もとこフィールド調査写真は、そもそも第三者が研究を引き継ぐことを想定していなかったと考えられるため（縄田・藤本他 2021）、撮影順あるいはテーマ別等写真群によって整理・保管方法が異なること、著作や講演等に利用するために収納ケースから抜き取られている場合があること、著作等での記述はあるものの、野帳等から撮影当時の状況と対応できる資料が少なく、写真自体に附随するメモが多い写真と少ない写真の差も顕著である（縄田・西尾他 2021）。このような点が、いざリピート写真撮影をしようとする場合には低くはないハードルとなった。

リピート写真撮影を行う前に、片倉もとこ自身がフィールド調査写真の保存ケースや写真の裏面等に遺した自筆のメモや著作等の分析を踏まえて、撮影地点を絞り込み、現地調査を経て撮影地点を同定する必要があった。以下、片倉もとこフィールド調査写真における、撮影地点の同定プロセス（図1）を概説する。

撮影地点の同定作業は、整理・保管状況の確認から始まった（図1A：整理・保管状況の確認）。その際、ワーディ・ファーティマ地域調査時（1968～1970年）に撮影された写真のフィルムについて、写真の内容に対応する詳細なメモが書かれた封筒が見つかった（写真1）。このような自筆のメモや著作の分析を通して、撮影場所が、ブシュール（Bushūr）、ダフ・ザイニー（Daf Zayny）両集落もしくはワーディ・ファーティマ地域周辺の集落のいくつかではないか、というレベルまでの絞り込みは可能と見込まれた。そこで、はじめに「片倉もとこ中東コレクション」に登録された約16,000シーンの写真資料群の中の個別の写真について、メモや当該写真が掲載されている著作の内容を精査し、ブシュール村、ダフ・ザイニー村を中心としたいくつかの集落で撮影したと推測される写真130シーンを選定した（図1B：撮影場所の推定（第1段階））。2018年5月に実施した現地調査では、選定した130シーンの写真を印刷して持参し、聞き取り調査を試みた（図1C：現地調査（第1回））。

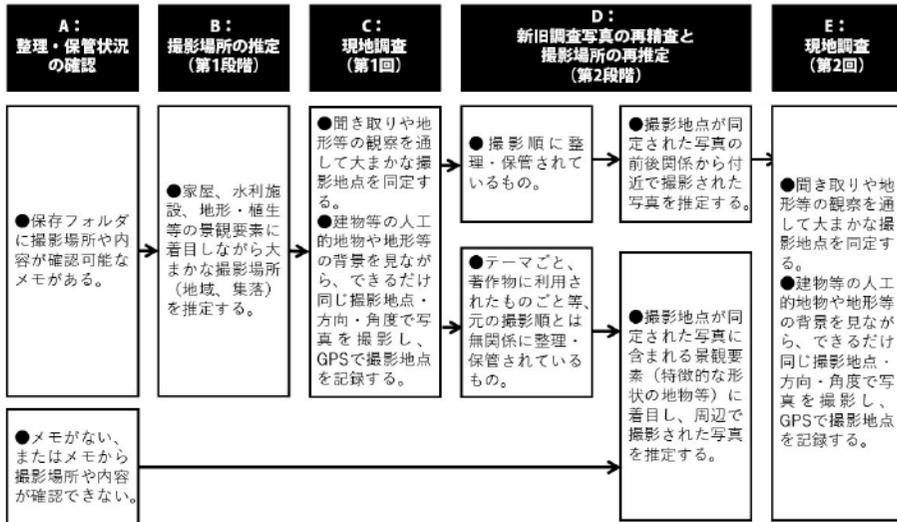


図1 片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点同定のフロー
(出典：渡邊他 (印刷中) を和訳し、一部修正)



写真1 片倉もとこフィールド調査写真に残されたメモ
(出典：渡邊他 (2019: 32-33) を一部修正)

2018年5月の現地調査時の聞き取り調査において、現地カウンターパートであるワーディ・ファーティマ社会開発センター職員や、片倉もとこの調査時のことを知る住民に写真を見せながら、それぞれの写真の場所に見覚えがあるか否かを確認してもらったところ、持参した130シーンの写真のうち、15シーンの撮影地点を同定することができた。撮影地点が同定された15シーンについては、後述するようにリピート写真撮影を行うとともに、位置情報をGPSで記録した。

第1回目の調査から帰国した後、現地調査で撮影地点が判明した写真を起点として、写真の前後関係や、特徴的な地物に着目しながら被写体の再精査を行い、さらなる撮影地点の推定を進めた(図1D:新旧調査写真の再精査と撮影場所の再推定(第2段階))。例えば、撮影の前後関係が明らかでない一連の写真に関しては、調査地点が確認された写真の前後に同じ人物や建物が写り込んでいれば同一集落内で撮影された可能性が高いと判断されるため、比較的容易に同定することができた。現地調査である程度の集落の絞り込みができた後であれば、被写体を丹念に比較対照させることで、情報が少ない別のケースに保管されている写真群についても、撮影集落の推定が十分に可能であった。

第2回目以降の調査については、第1回目の調査後に撮影集落や撮影地点が推定されたものを中心に、地域住民への聞き取りや地形観察を行った。非常に地道な作業ではあるが、この作業を繰り返すことによって、撮影地点同定とリポート写真撮影の作業は少しずつ進展した。結果、2018年5月、2018年12月~2019年1月、2019年9月の3回の調査を経て、2020年9月現在までの間に、パノラマ合成写真を含む240シーンの写真撮影地点が同定され、うちパノラマ合成写真を含む50シーンについてはリポート写真撮影を行うことができた。なお、詳細な撮影地点の同定プロセスについては、別稿(渡邊他 印刷中)を参照されたい。

2.2 本研究におけるリポート写真撮影の方法

Finsterwalder が東アルプスで実施した事例や、植生調査等で用いられるリポート写真撮影は、定点カメラを用いた撮影が行われることが多い。また、KlettらのRSPプロジェクトは、撮影地点やアングルだけでなく、光の加減、つまり時期、天気、時間等も考慮した厳密なものである。平岡(2005)のように、新旧写真をデジタル処理し、定量的に比較するような場合にも、厳密な場所の特定が求められる。こうした方法論については、Webb *et al.* (2010)、Rogers *et al.* (1984)、Klett *et al.* (2006)、Klett (2011) 等で、カメラを適切な位置に配置し、適切な焦点距離のレンズを使用し、同じポイントを狙って、一日の同じ時間に、一年の同じ時間に撮影する(太陽光の入射角が同じになるようにする)こと、等の方法が示されている。また、撮影時の状況や、最初の写真を撮影した撮影者が研究者である場合は、その研究上の興味や関心に基づいて風景が切り取られている可能性があること、写真家の場合は、レンズの使い分けによる遠近感の変化や陰影の強調等被写体の写真の外観がコントロールされている可能性があること等、最初の写真を選択する際のバイアスが事実上避けられないことを認識し、そのバイアスが新旧の写真と比較した際に見られる変化の解釈に影響を及ぼすことを認識しておくことが必要であること(Rogers *et al.* 1984) 等、考慮すべき点についても論じられている。

これらの既に蓄積された手法を参考としてリポート写真撮影を行えば、分野を問わず利用可能な新旧比較写真が作成できる。しかし、現実問題として、上述の条件を満たし

たりレポート写真撮影を行うためには、膨大な現地調査の時間と熟練の技術が必要となる。特に現地調査にかけられる時間の制約という観点から、本研究においては、できるだけ厳密さを心がけつつ、以下の方法でレポート写真撮影を行った。

まず、聞き取り調査により撮影地である可能性が高いとされた地域を訪れ、被写体となっている人工物、例えば Masjid (モスク) 等の建物や山地を探した。目当ての人工物や地形が見つかった場合、片倉もとこフィールド調査写真とカメラのファインダーを見比べながら具体的な撮影地点を探った。この際に重視したのは、手前の人工物と背後の地形との位置関係で、これらの要素の位置関係が片倉もとこフィールド調査写真と、カメラのファインダーの中の風景とで重なれば (写真2)、その写真はそこで撮影されたと判断した。厳密な特定ではないものの、出来上がった新旧比較写真を見る限り、景観の変化を読み解くには十分な解像度であると判断した。なお、家屋の増加等により、厳密に同じアングルで撮影することが難しい場合等も多々あり、若干の場所のずれがあるものもある。その場合には写真の撮影情報と合わせて、データセット一覧表の備考欄にその旨を記載した。

しかし、農地と背後の山地しか目印がない場合には、遠景になればなるほど特定は困難であった。その場合は、衛星画像を参考にしながら慎重に特定を進めた。その結果、何枚かの写真については、候補地が数か所にしか絞れなかったものもある。この場合に



写真2 リポート写真撮影の様子
(撮影：遠藤仁，2019年1月，ブシュール)

については、候補となる場所の位置情報と写真を並列し、データセット一覧表の備考欄にその旨を記載した。

2.3 残された課題

現地調査と調査後の被写体の再精査を通じた撮影場所の推定を繰り返すことで、片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点同定は、少しずつ進展してきた。しかし、実際にリピート写真撮影を行うのは現地調査の際であるが、場所の推定に関しては、調査後に被写体を再精査する中で分かることが多い。調査後に、自分たちの調査写真と片倉もとこフィールド調査写真とを比較する中で、思わぬ場所で同じ被写体が発見されることがあるからである（渡邊他 印刷中）。こうした「偶然の一致」については、Smith がリピート写真撮影を行うきっかけとなった心打たれた体験として紹介しているように（Smith 2007: 180-181）、完全なる偶然というわけではなく、しばしば起りうる現象である。

具体的には、撮影した写真の一部分が、片倉もとこフィールド調査写真と一致する、という場合が多い。このため、これまで作成した新旧比較写真の中には、撮影地点が既に確定しているものについては、オリジナルの写真から切り抜いた写真で仮にマッチングを作成しているものもある。これらの写真については、次回以降の調査の際にその場所を再訪してリピート写真撮影を行い、正式な新旧比較写真を撮影する必要がある。また、この経験から、リピート写真撮影を行うプロジェクトでは、古い写真の撮影者が訪れた場所では、全方位の写真を撮影しておくことが提案できる。

3 本研究プロジェクトで作成されたワーディ・ファーティマ地域の新旧比較写真

既述のように本研究プロジェクトでは、現在までに、パノラマ合成写真を含めて50点の新旧比較写真を作成することができた。以下、被写体が女性であったこと等から現時点では非公開とした写真群を除く、ワーディ・ファーティマ地域で撮影された新旧比較写真のメタ情報の一覧（表1）と新旧比較写真46組（写真3～48）を示す。

一覧表の記載内容は以下のとおりである。

- ①ID 番号：片倉もとこフィールド調査写真を整理・デジタル化した際に付与したKM から始まる番号（縄田・西尾他 2021）。パノラマ合成を行った場合には、使用した写真全ての番号を記載した。
- ②片倉もとこフィールド調査写真：縮小画像
- ③撮影者：当該の片倉もとこフィールド調査写真の撮影者。基本的には片倉もとこが撮影者であるが、片倉が被写体となっている場合には「不明」とした。

- ④撮影時期：保存ケースまたは個別の写真に付与された情報から撮影時期が分かるものについて記載し、分からないものについては「不明」とした。書籍や講演等で利用するために他のケースに移されて、一連の写真の連続性が崩れてしまった結果、撮影時期が確実に判断できない場合にも「不明」とした。
- ⑤リピート写真 (1)：私たちの調査グループが新たに撮影した写真の縮小画像
- ⑥リピート写真 (2)：私たちの調査グループが新たに撮影した写真の縮小画像で、季節が違う場合や、撮影地点が絞り切れなかった場合にこの欄に示した。
- ⑦リピート写真の撮影時期：私たちの調査グループが新たに撮影した写真の撮影時期。複数ある場合には、「リピート写真 (1)」を「(1) YYYY年M月」, 「リピート写真 (2)」を「(2) YYYY年M月」とした。
- ⑧リピート写真の撮影者：私たちの調査グループが新たに撮影した写真の撮影者。複数ある場合には、「リピート写真 (1)」を「(1) 氏名」, 「リピート写真 (2)」を「(2) 氏名」とした。
- ⑨場所：新旧の写真が撮影された場所を示した。現段階では、行政区分図等が確認できていないため厳密な集落の領域が不明である。本稿では、現在の衛星画像を判読し、住居が途切れずに密集している地域を、仮に「集落の中心をなす範囲」とみなした。集落の名称に関しては、『Bedouin Village』(Katakura 1977) 等、片倉の著作に見られる名称を参考に現地調査で確認がとれたものを採用した。上述のように、農地や沙漠を含めたその集落の領域がどこまで及ぶのかについては、現段階では不明であるため、農地や沙漠で撮影された写真の場所については、聞き取りで確認された地名または、最寄りの「集落の中心をなす範囲」の地名を仮に記載している。このため、ここで記載している地名は、農地や井戸等の帰属関係を表すものではなく、今後の確認が必要である。なお、表1や写真に記載されている地名は、縄田・藤本他 (2021) の図2を参照されたい。
- ⑩⑪緯度・経度：新旧の写真の撮影地点の位置情報を10進経緯度で示した。
- ⑫確度：私たちの調査グループが新たに撮影した写真が、どの程度、片倉もとこフィールド調査写真と一致しているかを、以下の基準で示した。
- 「確度の表記基準」
- A：同じ場所、同じアングルで撮影できたもの
- A'：撮影地点とアングルは判明しているが、再撮影が必要なもの
- B：撮影地点は分かったが、風景が変わり完全に同じ場所で撮影できなかったり、比較写真から完全に同じ場所、同じ向き、同じアングルであるかが確認できないもの、もしくは地形等から、場所が推定できるが遠景であるために完全に同じ場所であるかが確認できないもの
- C：だいたい同じ場所で撮影されたと推定されるもの

D：場所は違うが、被写体の建造物が特定されているもの

E：別の場所である可能性が残されているもの

- ⑬備考：特記事項があれば備考欄に記載した。備考欄に「オリジナル写真からのクローズアップ」という表記があるものについては、「2.3 残された課題」で触れたように、次回以降の調査の際にレポート写真撮影を行い、正式な新旧比較写真を撮影することを予定している。

4 おわりに——ワーディ・ファーティマ地域の景観研究におけるレポート写真撮影の意義

本研究では、サウディ・アラビア、マッカ州、ワーディ・ファーティマ地域の過去半世紀にわたる景観変化の検証を目的として、片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点の同定およびレポート写真撮影を実施した。その結果、パノラマ合成写真を含む240シーンの写真の撮影地点が同定され、うちパノラマ合成写真を含む50シーンについてはレポート写真撮影を行うことができた。

このうち本稿では、撮影地点同定作業およびレポート写真撮影のプロセスを概説するとともに、作成した新旧比較写真の中から、被写体が女性であったこと等から現時点では非公開とした写真群を除く、ワーディ・ファーティマ地域で撮影された新旧比較写真46組を提示した。

実際に、レポート写真撮影にこぎつけるまでには、低くはないハードルがあったが、サウディ・アラビアの非都市部における半世紀の変化を視覚的に表示することができるという意味で、非常に貴重なデータセットを作成することができたと考える。

本研究においては、衛星画像との比較や、現地での聞き取り調査も踏まえて、対象地域におけるおよそ半世紀の景観変化の検証を試みているが、今回作成した新旧比較写真の一覧表は、位置情報も含み、追跡的に調査することが可能な形で提示した。片倉もとこフィールド調査写真に限らず、先人の研究者が遺したフィールド調査写真についても、レポート写真撮影により追跡可能なデータセットを作成することができれば、後世の研究者によって長期的な景観変化の検証が可能となるであろう。

本研究で作成したデータセットが私たち調査グループによる新たな研究のための基礎的資料群となると同時に、より多くの人々がアクセス可能な、現在から未来に向けた景観研究の資料となっていくことを期待したい。

参考文献

〈日本語〉

青山宏夫

2017 「博物館資料を多角的に読む——風景写真を事例に」国立歴史民俗博物館編『〈総合資料学〉の挑戦——異分野融合研究の最前線』 pp. 120-135, 東京：吉川弘文館。

縄田浩志・西尾哲夫・片倉邦雄・藤本悠子・河田尚子・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・石山俊
2021 「片倉もとこによるサウディ・アラビア, ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査写真のアーカイブ登録について」『片倉もとこフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編(国立民族学博物館調査報告153) pp. 63-86, 大阪：国立民族学博物館。

縄田浩志・藤本悠子・河田尚子・片倉邦雄・古澤文・渡邊三津子・遠藤仁・石山俊

2021 「片倉もとこによるサウディ・アラビア, ワーディ・ファーティマ地域を対象とするフィールド調査資料の学術的特徴について」『片倉もとこフィールド調査資料の研究』西尾哲夫・縄田浩志編(国立民族学博物館調査報告153) pp. 1-30, 大阪：国立民族学博物館。

浜田弘明

2007 「景観研究資料としての『渋沢フィルム』の今日的意義——韓国南部を例に」『第2回国際シンポジウム報告書「図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く」』 pp. 220-230, 神奈川：神奈川大学。

平岡直樹

2005 「天竜川沿川における新旧写真比較からみる景観の変容に関する研究」『ランドスケープ研究』68(5): 791-794。

渡邊三津子・古澤文・遠藤仁・縄田浩志

2019 「片倉もとこのフィールド資料を読み解く」縄田浩志編『サウジアラビア, オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」』 pp. 32-33, 東京：河出書房新社。

渡邊三津子・古澤文・遠藤仁・藤本悠子・Anas Mohammed Melih・河田尚子・縄田浩志

印刷中「片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点の同定——サウディ・アラビア, ワーディ・ファーティマ地域の景観変遷復元を目的とした写真の研究活用に向けて」『沙漠研究』。

〈外国語〉

Andron, S.

2016 Paint, Buff, Shoot, Repeat; Rephotographing Graffiti in London, In B. Campkin and G. Duijzings (eds.) *Engaged Urbanism: Cities and Methodologies*, London and New York: I. B. Tauris, pp. 139-144.

Hattersley-Smith, G.

1966 The Symposium on Glacier Mapping, *Canadian Journal of Earth Sciences* 3(6): 737-743.

Katakura, M.

1977 *Bedouin Village, A Study of a Saudi Arabian People in Transition*, Tokyo: University of Tokyo Press.

- Klett, M., E. Manchester, and J. Verburg
1984 *Second View: The Rephotographic Survey Project*. Albuquerque: University of New Mexico Press.
- Klett, M., M. Lundgren, R. Solnit, and K. Breuer
2006 *After the Ruins, 1906 and 2006: Rephotographing the San Francisco Earthquake and Fire*. Berkeley: University of California Press.
- Klett, M.
2011 Repeat Photography in Landscape Research. In E. Margolis and L. Pauwels (eds.) *The SAGE Handbook of Visual Research Methods*. London: SAGE Publications.
- Muybridge, E. and M. Klett
1990 *One City Two Visions: San Francisco Panoramas, 1878 and 1990*. Bedford: Bedford Arts.
- Rogers, G. F., H. E. Malde, and R. M. Turner
1984 *Bibliography of Repeat Photography for Evaluating Landscape Change*. Salt Lake City: University of Utah Press.
- Smith, T.
2007 Repeat Photography as a Method in Visual Anthropology. *Visual Anthropology* 20(2-3): 179-200.
- Webb, R. H., D. E. Boyer, and R. M. Turner
2010 *Repeat Photography: Methods and Applications in the Natural Sciences*. Washington, D.C.: Island Press.

参考ウェブサイト

東京国立博物館

- 2020 「古写真データベース」 https://webarchives.tnm.jp/infolib/meta_pub/G0000002070607HP
(2020年9月30日最終閲覧)

長崎大学附属図書館

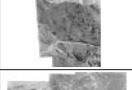
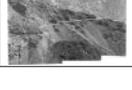
- 2020 「幕末・明治期日本古写真メタデータ・データベース」 <http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/>
(2020年9月30日最終閲覧)

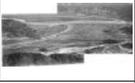
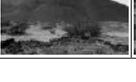
University of Vermont

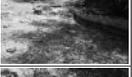
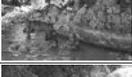
- 2020 The Landscape Change Program. <https://www.uvm.edu/landscape/> (accessed September 30, 2020)

表1 ワーディ・ファータィマ地域におけるレポート撮影写真の一覧

① ID 番号	② 片倉もとこ フィールド調査写真	③ 撮影者	④ 撮影時期	⑤ レポート写真 (1)	⑥ レポート写真 (2)	⑦ レポート写真の 撮影時期	⑧ レポート 写真の撮影者	⑨ 場所	⑩ 緯度*	⑪ 経度*	⑫ 確度**	⑬ 備考
KM_0003		片倉もとこ	1968-1970年			2018年5月	渡邊三津子	アブー・シャイブ, National Water Company が管理するタンク。地下水と海水淡水化水を混ぜて Jumum に給水する。	21.588680°N	39.699741°E	C	
KM_0435		不明	1968-1970年			2018年5月	遠藤仁	ダフ・ザイニー, ビール・シャーヒル, 放棄された井戸	21.560860°N	39.679950°E	A	
KM_1201		片倉もとこ	1982年11月			2018年5月	渡邊三津子	ダフ・ザイニー, 共用の水場	21.558545°N	39.680843°E	B	
KM_1225		片倉もとこ	1982年11月			2018年5月	渡邊三津子	Wadi Fatimah Poultry Farm Co.	21.572278°N	39.675479°E	C	
KM_1552		片倉もとこ	1983年			2018年5月	遠藤仁	ダフ・ザイニー	21.559471°N	39.682385°E	A	
KM_1621		片倉もとこ	1983年			2019年1月	遠藤仁	ダフ・ザイニー, 学校前のグラウンド	21.560525°N	39.680939°E	A	
KM_1624		片倉もとこ	1983年			2018年5月	渡邊三津子	ブシュール, 泥レンガの製造場	21.568570°N	39.684620°E	C	
KM_1652		片倉もとこ	1983年			2019年1月	渡邊三津子	ダフ・ザイニー, 学校の外壁	21.560525°N	39.680939°E	B	
KM_1664		片倉もとこ	1983年			2019年1月	渡邊三津子	ダフ・ザイニー, 学校の外壁	21.560525°N	39.680939°E	A	

①ID番号	②片倉もところフィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤レポート写真(1)	⑥レポート写真(2)	⑦レポート写真の撮影時期	⑧レポート写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫確度**	⑬備考
KM_1838		片倉もところ	不明			2018年12月	遠藤仁	アル=ハイフ、アイン・アル=ハイフ(ハイフの泉)	21.711686°N	39.746099°E	A	
KM_1850		片倉もところ	不明			2019年1月	渡邊三津子	アル=ハイフ、アイン・アル=ハイフ(ハイフの泉)	21.711686°N	39.746099°E	A	オリジナル写真からのクローズアップ
KM_1851		片倉もところ	不明			2018年12月	遠藤仁	アル=ハイフ、アイン・アル=ハイフ(ハイフの泉)	21.711686°N	39.746099°E	B	
KM_1858		片倉もところ	不明			2018年5月	遠藤仁	アル=ハイフ、アイン・アル=ハイフ(ハイフの泉)	21.711686°N	39.746099°E	A	
KM_2268, KM_2269, KM_2271		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371308°N	40.266617°E	C	オリジナル写真からのクローズアップ
KM_2270		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371308°N	40.266617°E	C	オリジナル写真からのクローズアップ
KM_2272, KM_2273, KM_2274		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシャカフェ(跡)から
KM_2275, KM_2276		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシャカフェ(跡)から
KM_2277, KM_2278, KM_2279, KM_2280		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシャカフェ(跡)から

①ID 番号	②片倉もところフィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤リポート写真 (1)	⑥リポート写真 (2)	⑦リポート写真の撮影時期	⑧リポート写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫精度**	⑬備考
KM_2282		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシャカフェ (跡) から
KM_2283, KM_2284		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシャカフェ (跡) から
KM_2292		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシャカフェ (跡) から
KM_2301		不明	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシャカフェ (跡) から
KM_2302		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	ターイフ	21.371850°N	40.256800°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ、シーシャカフェ (跡) から
KM_2628		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	アル=ジウムーム、ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上	21.613975°N	39.698828°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ
KM_2629		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	アル=ジウムーム、ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上	21.613975°N	39.698828°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ
KM_2634		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月21日	遠藤仁	アル=ジウムーム、ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上	21.613975°N	39.698828°E	A'	オリジナル写真からのクローズアップ
KM_2994		片倉もところ	1968-1970年			1) 2018年5月9日 2) 2018年5月	1) 渡邊三津子 2) 遠藤仁	農地	21.576250°N	39.680340°E	C	

①ID番号	②片倉もところフィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤リポート写真(1)	⑥リポート写真(2)	⑦リポート写真の撮影時期	⑧リポート写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫確度**	⑬備考
KM_3231		片倉もところ	1968-1970年			2018年5月	遠藤仁	ダフ・ザイニー	21.559110°N	39.681830°E	B	
KM_3234		片倉もところ	1) 1968-1970年 2) 2003年			2018年5月	遠藤仁	ダフ・ザイニー	21.558820°N	39.681530°E	B	
KM_3305		片倉もところ	1968-1970年			2019年12月	遠藤仁	アル＝ハイフ、アイン・アル＝ハイフ(ハイフの泉)	21.711629°N	39.745968°E	A'	
KM_3306		片倉もところ	1968-1970年			1) 2018年5月 2) 2018年12月	1) 遠藤仁 2) 渡邊三津子	アル＝ハイフ、アイン・アル＝ハイフ(ハイフの泉)	21.711629°N	39.745968°E	A	
KM_3307		片倉もところ	1968-1970年			1) 2019年9月 2) 2029年9月	1) 遠藤仁 2) 渡邊三津子	アル＝ハイフ、アイン・アル＝ハイフ(ハイフの泉)	21.711629°N	39.745968°E	A	
KM_3308		片倉もところ	1968-1970年			2018年5月	遠藤仁	アル＝ハイフ、アイン・アル＝ハイフ(ハイフの泉)	21.711629°N	39.745968°E	A	
KM_3309		片倉もところ	1968-1970年			2019年9月	遠藤仁	アル＝ハイフ、アイン・アル＝ハイフ(ハイフの泉)	21.711629°N	39.745968°E	A	
KM_3363		片倉もところ	1968-1970年			1) 2019年9月19日 2) 2019年9月19日	1), 2) 遠藤仁	アル＝ジュムーム、市庁舎の玄関前	21.613436°N	39.699778°E	B	
KM_4806		片倉もところ	1969年			2019年9月	遠藤仁	アル＝ジュムーム、ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上	21.613975°N	39.698828°E	B	

①ID 番号	②片倉もところ フィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤リピート写真 (1)	⑥リピート写真 (2)	⑦リピート写真の 撮影時期	⑧リピート 写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫ 精度**	⑬備考
KM_4808		片倉もところ	1969年			2019年9月	遠藤仁	アル＝ジュムーム、ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上	21.613975°N	39.698828°E	B	
KM_5409		片倉もところ	1988年2月20日			2018年5月	遠藤仁	アル＝ジュムーム、ワーディ・ファーティマ社会開発センターの正門前	21.613300°N	39.699100°E	A	
KM_5466		片倉もところ	1988年2月			2018年5月	渡邊三津子	アル＝ジュムーム - ハッダ道路脇のサンドピット	21.549636°N	39.647891°E	C	
KM_5509		片倉もところ	1988年2月			2019年1月	遠藤仁	ブシュール、モスク (モスク) 前の商店	21.569847°N	39.688205°E	B	
KM_5519		片倉もところ	1988年2月			2019年1月	遠藤仁	ブシュール、モスク (モスク) 前の通り	21.569490°N	39.686650°E	A	
KM_5522		片倉もところ	1988年2月			2019年1月	渡邊三津子	ブシュール、モスク (モスク) 前の通り	21.569490°N	39.686650°E	C	
KM_5526		片倉もところ	1988年2月			2019年1月	遠藤仁	ブシュール、モスク (モスク) 前の通り	21.569490°N	39.686650°E	C	
KM_5579		不明	1968-1970年			2018年5月	遠藤仁	ダフ・ザイニー、放棄された井戸	21.560860°N	39.679950°E	A	
KM_6761		片倉もところ	不明			2018年5月	遠藤仁	ブシュール、墓地	21.573310°N	39.695410°E	C	要再確認

①ID 番号	②片倉もところフィールド調査写真	③撮影者	④撮影時期	⑤リポート写真 (1)	⑥リポート写真 (2)	⑦リポート写真の撮影時期	⑧リポート写真の撮影者	⑨場所	⑩緯度*	⑪経度*	⑫精度**	⑬備考
KM_1442		片倉もところ	1983年			2019年	遠藤仁	ダフ・ザイニー	21.558820°N	39.681530°E	A	

*位置情報 (緯度・経度)

位置情報は、GARMIN 社の GPS(Oregon 550, eTrex 20x) を用いて取得した。これらの精度は、約3mとなっている。現地で位置情報が取得できなかった、KM_0003, KM_1652, KM_1664, KM_2628, KM_2629, KM_2634, KM_4806, KM_4808に関しては、Google Earthを用いて撮影地を割り出し、緯度・経度情報を取得した。なお、これらの位置情報の表記は、国土交通省等が提供する国土数値情報に準拠して、10進経緯度、小数点以下6桁で統一した。

**精度の判定基準

A: 同じ場所同じアングルで撮影できたもの

A': 撮影地点とアングルは判明しているが、再撮影が必要なもの

B: 撮影地点は分かったが、風景が変わり完全に同じ場所で撮影できなかったり、比較写真から完全に同じ場所、同じ向き、同じアングルであるかが確認できないもの、もしくは地形などから、場所が推定できるが遠景であるために完全に同じ場所であるかが確認できないもの

C: だいたい同じ場所で撮影されたと推定されるもの

D: 場所は違うが、被写体の建造物が特定されているもの

E: 別の場所である可能性が残されているもの



(a) 撮影：片倉もところ、1968-1970年、アブー・シャイブ、KM_0003 (b) 撮影：渡邊三津子、2018年5月、アブー・シャイブ

写真3 アブー・シャイブの地下水と海水淡水化水の混合タンク



(a) 撮影：不明、1968-1970年、ダフ・ザイニー、KM_0435 (b) 撮影：遠藤仁、2018年5月、ダフ・ザイニー

写真4 ダフ・ザイニー村のはずれに位置する井戸（ビル・シャーヒル）

タナカ（一斗缶）を頭に乗せて井戸に歩み寄る後ろ姿の女性は片倉もところ。写真46のカラー写真のモノクロ版。なお、この場合の「ダフ・ザイニー村」とは、この井戸から最寄りの「集落の中心をなす範囲」（181頁参照）の名称を示しており、被写体（井戸）の帰属関係を示すものではない。



(a) 撮影：片倉もところ、1982年11月、ダフ・ザイニー、KM_1201 (b) 撮影：渡邊三津子、2018年5月、ダフ・ザイニー

写真5 ダフ・ザイニー村の共用水場



(a) 撮影：片倉もとこ，1982年11月，ダフ・ザイニー，KM_1225 (b) 撮影：渡邊三津子，2018年5月，ダフ・ザイニー

写真6 養鶏場

敷地の外から撮影したため、厳密な場所の特定ができていない



(a) 撮影：片倉もとこ，1983年，ダフ・ザイニー，KM_1552

(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，ダフ・ザイニー

写真7 ダフ・ザイニー村の道



(a) 撮影：片倉もとこ，1983年，ダフ・ザイニー，KM_1621

(b) 撮影：遠藤仁，2019年1月，ダフ・ザイニー

写真8 ダフ・ザイニー村の学校前のグラウンド



(a) 撮影：片倉もとこ，1983年，ブシュール，KM_1624
 写真9 ブシュール村のはずれの泥レンガ製造場

(b) 撮影：渡邊三津子，2018年5月，ブシュール



(a) 撮影：片倉もとこ，1983年，ダフ・ザイニー，
 KM_1652

(b) 撮影：渡邊三津子，2019年1月，ダフ・ザイニー

写真10 ダフ・ザイニー村の学校の外壁



(a) 撮影：片倉もとこ，1983年，ダフ・ザイニー，
 KM_1664

(b) 撮影：渡邊三津子，2019年1月，ダフ・ザイニー

写真11 ダフ・ザイニー村の学校の外壁



(a) 撮影：片倉もとこ，不明，アル＝ハイフ，KM_1838
写真12 アイン・アル＝ハイフ（アル＝ハイフ村の泉）

(b) 撮影：遠藤仁，2018年12月，アル＝ハイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，不明，アル＝ハイフ，KM_1850

(b) 撮影：遠藤仁，2018年12月，アル＝ハイフ

写真13 アイン・アル＝ハイフ（アル＝ハイフ村の泉）



(a) 撮影：片倉もとこ，不明，アル＝ハイフ，KM_1851
写真14 アイン・アル＝ハイフ（アル＝ハイフ村の泉）

(b) 撮影：遠藤仁，2018年12月，アル＝ハイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，不明，アル=ハイフ，KM_1858 (b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，アル=ハイフ
写真15 アイン・アルハイフ（アル=ハイフ村の泉）



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，KM_2268・KM_2269・KM_2271



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ
写真16 ターイフ市のはずれの道路から
写真17と同じ場所から撮影されたもの



(a) 撮影：片倉もところ、1968-1970年、ターイフ、KM_2270



(b) 撮影：遠藤仁、2019年9月、ターイフ

写真17 ターイフ市のはずれの道路から
写真16と同じ場所から撮影されたもの



(a) 撮影：片倉もところ、1968-1970年、ターイフ、
KM_2272・KM_2273・KM_2274



(b) 撮影：遠藤仁、2019年9月、ターイフ

写真18 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から

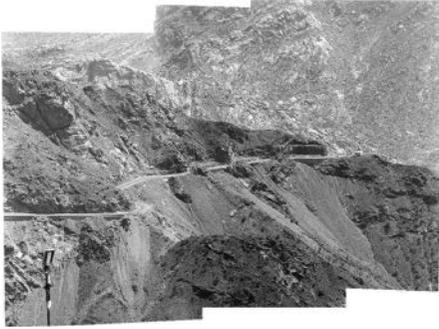


(a) 撮影：片倉もところ、1968-1970年、ター
イフ、KM_2275・KM_2276

写真19 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(b) 撮影：遠藤仁、2019年9月、ターイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，
KM_2277・KM_2278・KM_2279・KM_2280
写真20 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，
KM_2282
写真21 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，KM_2283・KM_2284



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ
写真22 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，
KM_2292
写真23 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ



(a) 撮影：不明，1968-1970年，ターイフ，KM_2301
写真24 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から
(a) の写真の左は片倉邦雄，右は片倉もとこ



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ターイフ，
KM_2302
写真25 ターイフ市のシーシャカフェ（跡）から



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，ターイフ



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，アル＝ジュムーム，
KM_2628



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル＝ジュムーム
写真26 アル＝ジュムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から



(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，アル=ジュムーム，KM_2629 (b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル=ジュムーム

写真27 アル=ジュムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から



(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，アル=ジュムーム，KM_2634 (b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル=ジュムーム

写真28 アル=ジュムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から



(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，ダフ・ザイニー付近，KM_2994



(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，ダフ・ザイニー付近



(b') 撮影：渡邊三津子，2018年5月，ダフ・ザイニー付近

写真29 ダフ・ザイニー村付近の農地

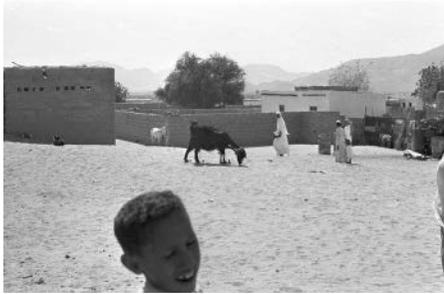


(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，ダフ・ザイニー，KM_3231



(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，ダフ・ザイニー

写真30 ダフ・ザイニー村の道路



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ダフ・ザイニー，KM_3234



(b) 撮影：片倉もとこ，2003年，ダフ・ザイニー，KM_14442



(c) 撮影：遠藤仁，2018年5月，ダフ・ザイニー

写真31 ダフ・ザイニー村にて

(a) の写真の少年と (c) の写真の男性は同一人物 (アリー・ザイニー氏)



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，アル＝ハイフ，KM_3305



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル＝ハイフ

写真32 アイン・アル＝ハイフ (アル＝ハイフ村の泉)



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，アル=ハイフ，
KM_3306



(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，アル=ハイフ



(b') 撮影：渡邊三津子，2018年12月，アル=ハイフ

写真33 アイン・アル=ハイフ（アル=ハイフ村の泉）



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，アル=ハイフ，
KM_3307



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル=ハイフ

写真34 アイン・アル=ハイフ（アル=ハイフ村の泉）



(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，アル=ハイフ，KM_3308



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル=ハイフ

写真35 アイン・アル=ハイフ（アル=ハイフ村の泉）



(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，アル=ハイフ，KM_3309



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル=ハイフ

写真36 アイン・アル=ハイフ（アル=ハイフ村の泉）



(a) 撮影：片倉もところ，1968-1970年，アル=ジュムーム，KM_3363



(b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル=ジュムーム

写真37 アル=ジュムーム市庁舎の玄関前



(a) 撮影：片倉もところ，1969年，アル＝ジウムーム，KM_4806 (b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル＝ジウムーム

写真38 アル＝ジウムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から



(a) 撮影：片倉もところ，1969年，アル＝ジウムーム，KM_4808 (b) 撮影：遠藤仁，2019年9月，アル＝ジウムーム

写真39 アル＝ジウムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの屋上から



(a) 撮影：片倉もところ，1988年2月，アル＝ジウムーム，KM_5409 (b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，アル＝ジウムーム

写真40 アル＝ジウムーム，ワーディ・ファーティマ社会開発センターの正門



(a) 撮影：片倉もところ、1988年2月、アル=ジュムームとハッダの間の道路脇、KM_5466



(b) 撮影：渡邊三津子、2018年5月、アル=ジュムームとハッダの間の道路脇

写真41 アル=ジュムームとハッダ間の道路脇のサンドピット



(a) 撮影：片倉もところ、1988年2月、ブシュール、KM_5509



(b) 撮影：遠藤仁、2019年1月、ブシュール

写真42 ブシュール村の masjid (モスク) 前の商店



(a) 撮影：片倉もところ、1988年2月、ブシュール、KM_5519



(b) 撮影：遠藤仁、2019年1月、ブシュール

写真43 ブシュール村の masjid (モスク) 前の通り



(a) 撮影：片倉もとこ，1988年2月，ブシュール，
KM_5522



(b) 撮影：渡邊三津子，2019年1月，ブシュール

写真44 ブシュール村のマスジド（モスク）前の通り



(a) 撮影：片倉もとこ，1988年2月，ブシュール，
KM_5526



(b) 撮影：遠藤仁，2019年1月，ブシュール

写真45 ブシュール村のマスジド（モスク）前の通り



(a) 撮影：片倉もとこ，1968-1970年，ダフ・ザイニ
ー，KM_5579



(b) 撮影：遠藤仁，2018年5月，ダフ・ザイニ
ー

写真46 ダフ・ザイニー村のはずれに位置する井戸（ビイル・シャーヒル）

タナカ（一斗缶）を頭に乘せて井戸に歩み寄る後ろ姿の女性は片倉もとこ。写真4のモノクロ写真のカラー版（オリジナルの写真はカラー）。なお、この場合の「ダフ・ザイニー村」とは、この井戸から最寄りの「集落の中心をなす範囲」（181頁参照）の名称を示しており、被写体（井戸）の帰属関係を示すものではない。



(a) 撮影：片倉もところ、不明、プシュール、KM_6761
写真47 プシュール村の墓地



(b) 撮影：遠藤仁、2018年5月、プシュール



(a) 撮影：片倉もところ、1983年、ダフ・ザイニー、
KM_14442

写真48 ダフ・ザイニー村

写真31とほぼ同じ地点で撮影されたもの



(b) 撮影：遠藤仁、2019年1月、ダフ・ザイニー